

SHOW HEYシネマルーム

★★★★★

スパイ・ゲーム

2001 (平成13) 年12月23日鑑賞

Data

監督: トニー・スコット

出演: ロバート・レッドフォード /

ブラッド・ピット / キャサリン・マコーマック

👁️👁️ みどころ

まちがいなく2001年の最高傑作の1つ。CIAのプロのエージェントとして、知的だが、非人間的な「ゲーム」を繰り返してきた2人の男が、実は男同士の深い信頼と友情そして師弟愛でつながっていた……。ベトナム戦争、ベイルートそして中国の蘇州刑務所……。知的スパイゲームの醍醐味を十分に……。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

<アメリカと中国>

映画のスタートは中国。1991年蘇州刑務所の場面から。中国でコレラ発生。刑務所内の受刑者に対する予防接種のため、アメリカから派遣された医師団が刑務所に入る。そこに白衣を着た医師(?) トム・ビショップ (ブラッド・ピット) がいた。しかし何となく雰囲気はあやしそう。予防接種の作業をしながら、タイミングをはかってビショップは突如、刑務所の電気系統を破壊。すべての監視装置が制御不能に陥った。刑務所長は10分以内の修理を厳命。ビショップはその間に、ある囚人の救出活動に走る。そしてまんまと成功し、脱出も計算通りに……。と思った瞬間、カラクリが見抜かれ、脱出の一手手前で逮捕された。

ここで場面は急転換。この映画の本来の主人公であるネイサン・ミューア (ロバート・レッドフォード) の登場。眠っている彼に電話が入る。「ボーイスカウト (ビショップの愛称) がトラブルに巻き込まれた」と。ミューアは、CIA (アメリカ中央情報局) に長年つとめて数々の功績を上げてきた優秀なスパイだが、実は今日が定年退職の日。退職金をもらい、バハマ諸島で今後は「優雅な第2の人生を」と考えていたところだ。

＜アメリカ中央情報局の活動＞

1991年、アメリカはちょうど大統領が中国を訪問しようとしていたところだった。東西冷戦が終了し、アメリカにとってはソ連にかかわって、新たに中国との付き合い方が大テーマになってきた時期だ。そんなとき元CIAのエージェントであったビショップがこともあろうに中国の蘇州刑務所で何らかの理由で勝手な行動をおこし、その挙句に逮捕された。中国では48時間後の死刑執行が決定。アメリカは、そしてCIAは、ビショップの救出のために動くべきか、それとも動かざるべきか……。この高度に政治的な判断のためには、ビショップについてのありとあらゆる情報が必要。そしてそのためには、ビショップを自分の弟子のようにCIAのエージェントとして育て、長年ビショップと行動を共にしてきたミュアーがもっている情報を集める必要がある。そう判断したCIA上層部は、直ちにビショップに関する情報の収集と整理のためミュアーをCIA会議室に招集した。

他方、ミュアーもCIAの現場でたたき上げたプロ。直ちに香港からの電信を通じてビショップが中国で逮捕された事情を把握したうえで、CIA上層部からの事情聴取に臨む。求められる質問に対して答えながら、逆にエージェントとしての極限の知恵を働かせて情勢分析をし、逆に情報を集め、整理していくミュアー。その知的ゲームはスリリングですごく魅力的だ。日本の映画では、なかなかこんなワクワクするシーンにはお目にかかれな

い。

ミュアーがビショップと知り合ったのはベトナムのサイゴン。ビショップを狙撃手として雇ったCIAスパイのミュアーは、ビショップがボーイスカウトで習ったという必殺の射撃能力が本物だったこと、そしてビショップの生まれもったスパイとしての能力を理解する。以降、ミュアーはビショップを愛弟子のように、CIAのエージェントに仕上げていく。そしてめきめきと上達するビショップ。2人はベルリンの壁が崩壊するベルリンで、そして中東のバイルートで、CIAエージェントとしての仕事に従事し、お互いの信頼を深めていく。しかし……。ここで女性が登場。バイルートでの作戦に従事中、レバノンの難民キャンプで、ビショップは美しい白人女性エリザベス（キャサリン・マコーマック）と出会う。彼女は難民キャンプで献身的な医療活動に従事していた。ビショップはCIAのエージェントとしてエリザベスに接触し、必要な情報を収集し、要人暗殺の目標に向けての準備を着々と整える。しかしビショップは若くてハンサム。そしてエリザベスも美人で魅力あふれる女性。そこに恋が芽生えない筈はない。2人は当然の如く1つのベッドに……。

＜プロの非情さと愛情・友情＞

プロ中のプロとして職務遂行が至上命令のミュアーは、こんなビショップを心配し、エリザベスの素性を暴露。そしてエリザベスは、彼女が実行した爆破事件で中国要人を死亡させた事件によって逮捕され、中国の蘇州刑務所に収監された。彼女の部屋にはビショップに別れを告げる偽りの手紙がCIAの手によって残されていた。ビショップはあまりにも非情なCIAの世界、スパイ（エージェント）の世界に嫌気がさし、ミュアーと別れ、別の人生を歩むことになった。

ミュアーは、長年教養育てきたビショップの能力はもちろん、彼の純粋な精神のあり様も理解していた。従って、「蘇州刑務所でボーイスカウトがトラブルに巻き込まれた」との報告を聞くや、一瞬にして事態を把握した。そしてCIA上層部からのビショップに関する情報収集の会議の進行の中で、アメリカは大統領の訪中におけるトラブル排除のため、ビショップを見殺しにするであろうことも理解した。しかしミュアーにはそれは絶対許せない。いくらCIAという組織への忠誠心があろうとも。そこでミュアーがとった作戦は・・・。

アメリカ合衆国大統領の訪中を控えて、中国蘇州近辺に展開するアメリカ艦隊。彼らはCIA長官からの指令がない限り、動くことは絶対ありえない。ところが……。本日定年退職を迎えるミュアーの手元には、CIA長官からのサイン入りの手紙があった。ミュアーはそのサインを偽造（転写）したうえ、ミュアーとビショップだけにわかる暗号作戦名「外食作戦」と名付けて、ビショップの救出作戦を発動させる。CIA会議室でミュアーからの情報収集をしている最中にこの作戦は決行された。そして蘇州刑務所における軍事力を伴った救出作戦の結果、ビショップとエリザベスは無事救出され、ビショップは「外食作戦」の首謀者が誰かを知る。CIAを定年退職する今日この日の大仕事を終えたミュアーは、2度と入ることのないCIA本部を出てポルシェで帰路につく。

＜あらためて考える中年男の魅力＞

何ともすごい知的ゲームだし、ロバート・レッドフォードの動き、しぐさそして男の友情、師弟愛がカッコいい。また何よりもプロフェッショナルとしての徹底さが何ともいえず魅力的。今年64歳になるというロバート・レッドフォードの魅力あふれる作品だ。ロバート・レッドフォードは1969年の「明日に向かって撃て」でトップスターとなり、1970年代の「追憶」（73年）、「華麗なるギャッツビー」（74年）、「コンドル」（75年）、「大統領の陰謀」（76年）などで、3年連続人気俳優ランキング第1位に輝いたハンサム男優。

そしてブラッド・ピットは、ロバート・レッドフォードが監督した映画「リバーランズ・

スルーイット」で一躍スターダムに押し上げられそうだ。今年37歳になるブラッド・ピットは、いうまでもなく今や若手男優ナンバー1のハンサムボーイで、人気トップの俳優だ。

＜充実度ナンバー1＞

私はこの2人の男たちの因縁は全く知らなかったが、この映画を見れば、「なるほど」よくわかる。それほどこの2人の友情、信頼、師弟愛はバッチリだ。そういう私的な結びつきは何も見せないまま、こんな大きな世界の歴史の背景の中で、2人のCIAエージェントとしての活動を通じて描かれた知的ゲームはこの上なく面白い。歴史的背景や時代的情況、そして何よりもアメリカにおけるCIAの位置というもののある程度理解しなければ、この映画そのもの、そしてこの映画の知的スパイゲームとしての面白さを理解できないかもしれない。しかしとにかくすごく充実した作品だ。1回で理解できない人は2回、3回と見て本当にこの作品の良さを味わってもらいたい。2001年のベスト3の1つに入る作品だ。

2001（平成13）年12月25日記